

全建連・地域木造優良（ちきゆう）住宅
先導システム国産材モデル 09

一般社団法人 工務店サポートセンター 次世代の会会長
鈴木 晴之 氏

日本の木で、日本の技で、日本の家
より良い住宅をつくり、しっかり守る地域工務店

全建連・地域木造優良(ちきゆう)住宅 先導システム国産材モデル09

全建連の工務店ネットワーク

JBN

Japan Builders Network

社団法人 全国中小建築工事業団体連合会／一般社団法人 工務店サポートセンター

長期優良住宅先導的モデル

ちきゆう
住宅



全建連・地域木造優良(ちきゆう)
住宅国産材モデル



わが国唯一の公益団体として、住宅性能保証制度の立ち上げ、普及の推進に協力するとともに、独自の品質基準と管理基準を備え、品質保証体制を整備している。

含水率
25%
以下

国産材利用
構造材・羽柄

ちきゆう住宅先導システム国産材モデルに用いる構造材及び羽柄材に国産材を100%使用して下さい。

地域木造優良(ちきゆう)住宅

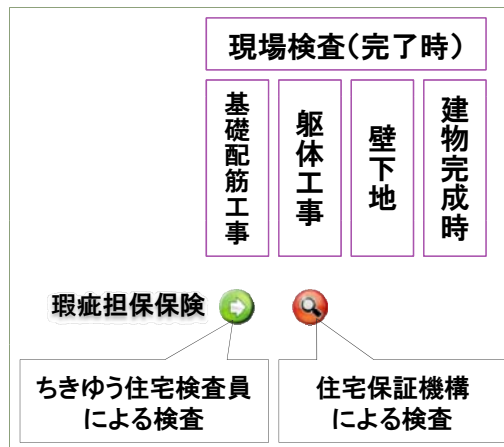


責任ある特定団体として特定団体割引の設定

戸建て住宅(床面積:100㎡~125㎡)の料金例		
	一般	ちきゆう住宅
通常コース	78,230円	57,710円
中小企業者コース	68,970円	53,030円

(財)住宅保証機構における「まもりすまい保険」の適応となり、着工前の保険申込みが必要となります。1回目の現場審査(基礎配筋工事完了時)は、自社検査員(要:ちきゆう住宅検査員)が行う事となります。

1回目の現場審査(基礎配筋工事完了時)は、ちきゆう住宅検査員が行う事が条件となっているため、自社にちきゆう住宅検査員体制



長期優良住宅先導的モデル

コンクリート
強度

基礎に用いるコンクリートは**強度30N以上**を確保する

コンクリート
第三者試験

現場にて抜き取りの上、**第三者機関による強度試験**を行い、これを確認する

長期優良住宅先導的モデル



これからの住宅に求められる
環境性能の向上にむけ
「CASBEEすまい(戸建)」の評価を
導入し、評価員による評価でB+以上を
取得します。

CASBEE TM すまい[戸建] 評価結果			
建物概要		評価結果	
竣工年月	2009年12月	総合評価	B+
建築種別	戸建	省エネルギー	B+
所在地	東京都中央区	省エネ率	27%
延床面積	130㎡	省エネ率	27%
建築費	45万円	省エネ率	27%
竣工日	2009年12月	省エネ率	27%
評価日	2010年2月	省エネ率	27%
評価員	株式会社	省エネ率	27%
評価機関	株式会社	省エネ率	27%

2-1 すまいの環境効率(BEランク)	2-2 入項目の評価(レーダーチャート)	2-3 ライフサイクルCO ₂ 削減率
★★★★★ (A)	省エネ率: 27% 省エネ率: 27% 省エネ率: 27% 省エネ率: 27% 省エネ率: 27% 省エネ率: 27%	削減率: 100% 削減率: 100% 削減率: 100% 削減率: 100% 削減率: 100% 削減率: 100%

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q1 室内環境を快適・安心にする (Q1のスコア: 3.5)	Q2 長く使い続ける (Q2のスコア: 4.1)	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする (Q3のスコア: 2.8)
L1 省エネルギーと省コストを実現する (L1のスコア: 3.2)	L2 資源を大切に使いリサイクルを促す (L2のスコア: 3.4)	L3 地球・地域・資源に配慮する (L3のスコア: 3.8)

ちきゅう住宅先導システム国産材
モデルに用いる構造材及び羽柄材
に国産材を**100%**使用して下さい



構造材とは

軸組等を構成する土台、大引、柱、梁、桁、母屋、束、棟木、隅木とする

羽柄材とは



根太、間柱、窓台、窓マグサ、貫、筋交、垂木、広小舞、破風、鼻隠、胴縁とする

土台は国産材のD1特定樹種とし、
4.5寸角以上とする。

土台は、JASに定められた耐久性区分D1の樹種のうち、住宅性能表示制度で定められた特定樹種で、下記に示す国産材の製材4.5寸角（13.5cm）以上、又は、集成材等4寸角（12cm）以上を用いる。

ヒノキ、ヒバ、ケヤキ、クリ（住宅性能表示制度では、これらと同等と見なされる国産材には、サワラ、ネズコ、イチイ、カヤ、コウヤマキがある。

1階の柱は国産材耐久性区分
D1の樹種を用いる。

1階の柱は、JASに定められた耐久性区分D1に区分される樹種で、下記に示す国産材のうち、いずれかの樹種の製材又は集成材等を用いる。

ヒノキ、ヒバ、ケヤキ、クリ、カラマツ、クヌギ、スギ、ミズナラ



**通し柱は4.5寸角以上
その他の柱は4寸角以上を用いる。**

通し柱は耐久性区分D1の国産材の樹種のうち、いずれかの樹種(ヒノキ、ヒバ、ケヤキ、クリ、カラマツ、クヌギ、スギ、ミズナラ)の製材4.5寸角(13.5cm)以上、又は、集成材等4寸角(12cm)以上を用います。また、その他の柱は4寸角(12cm)以上を用いる。ただし、1階の柱は耐久性区分D1の樹種とする。



地盤調査と保証

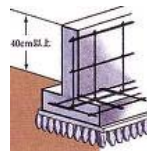
「住まい手」の安心の為に、地盤調査を行い、地盤のチェックと適合する基礎の設計・施工を行うとともに保険による地盤保証を加入します。

地盤保証を必ず受けて下さい。



基礎の立ち上がり部分の幅を 15cm以上確保する

基礎幅15cm以上として、鉄筋コンクリート構造の場合に建築基準法に定められている鉄筋の土に接する部分のかぶり厚さ6cm以上を適用除外となっている木造住宅の基礎としても確保する。



構造に使用する金物はZマーク表示 金物を原則として使用する

同等品等については、工務店サポートセンター編集による「長期優良住宅マニュアル(建材編)」によるものとする



サポートセンターへの交付申請

- 補助金申請書
- エントリー申請書写し
- 審査協力機関による適合確認書
- 確認済書+確認申請書 第一～第五面
- 設計住宅性能評価書+評価等級が記載された頁
- ちきゆう住宅検査員（建築士）による適合確認書
- 建築士免許の写し
- 補助額算出表
- 設計費・申請料等（補助対象外）内訳書
- 請負契約書
- 内訳書（詳細なもので、一式表示等は不可）
- 完成出来高見込算出書
- 共同事業実施規約承諾書
- 見学会計画書
- ちきゆう住宅検査員（建築士）が確認に用いた設計図書
- **認定通知書**
- **CASBEE（戸建）評価シート**

2009.04.07
工務店サポートセンター内部資料

平成 21 年度第 1 回交付申請に必要な書類について-1

交付申請時には、次の表 1 に掲げる書類が必要ですのでご注意ください。
また、この交付申請に必要な書類については国の審査協力機関の都合により内容が変わることがありますので、必ず申請前にホームページ上にアップされている最新の申請書類を確認の上、交付申請を行ってください。（書式のホームページへのアップは 4 月 10 日を予定しています。）

表 1：交付申請に必要な書類及び部数

交付申請書類	①様→地分-	②審査機関	③国交省
1.【書式 1】補助金申請書	1部		
2. エントリー申請書写し	1部		
3.【書式 7】審査協力機関による適合確認書		1部	
4. 確認済書+確認申請書 第一～第五面	1部		
5. 設計住宅性能評価書+評価等級が記載された頁	1部	1部	1部
6.【書式 3】ちきゆう住宅検査員（建築士）による適合確認書 （表裏両面印刷して下さい。） 建築士免許の写し	1部 建築士 免許写し	1部	1部（原本）
7.【書式 6】補助額算出表 【書式 6-2】④設計費・申請料等（補助対象外）内訳書 【任意書式】請負契約書 【任意書式】内訳書（詳細なもので、一式表示等は不可）	1部	1部	1部 （補助額算出 表は原本）
8.【書式 4】完成出来高見込算出書	1部	1部	1部
9.【書式 2】共同事業実施規約承諾書 （表裏両面印刷して下さい。）	1部	1部	1部（原本）
10.【書式 5】見学会計画書	1部		
11.ちきゆう住宅検査員（建築士）が確認に用いた設計図書 付送見取図、配置図、面積表、仕上表、各層平面図、立面図、 断面図、基礎状況、各種床状況、N値計算書（N値計算を行 った場合のみ）		1部	

【財】住宅保証機構への保険契約申込書類 必要部数

赤字の部分が昨年度から変更になった部分ですので、ご注意ください。また、原本と明記されている部分については印刷がコピー（カラーコピー含む）ではなく、捺印された原本が必要なものを示しています。

工事記録システム

•住宅の建設において、最も重要なことは確実な施工である。本「工事記録システム」は、単に工事を記録するだけでなく、設計仕様に基づいた確実な施工を間違いなく行うことを目的として、各工事工程において、必要な仕様の確認を目視・計測しながら現場写真に記録できるようにする。

•「工事記録システム」オンラインソフトとして開発され、現場でのデジタルカメラや携帯カメラのデータ入力に自動で対応、工事記録書への振り分けの自動化など現場の省力化に対応し、紙データへの出力もエクセルデータで可能で、

住宅履歴書との連携も確保されている。



JBNとは

Japan Builders Networkの略。
北米のホームビルダーの全国組織・NAHB
をモデルに、全建連の工務店会員を組織
(ネットワーク)し、わが国の工務店業界を構
築する目的で2007年4月から会員登録を開
始した、工務店による工務店のためのネット
ワーク。現在約2000社の会員数。

工務店サポートセンターとは

JBN会員のさまざまな業務・活動を支援する
ことを目的に、国土交通省をはじめ関係機関
の理解、協力をもとに設立、運営されている
組織。

3つのしくみ

- ・つくる仕組み 長期優良住宅・エコ住宅の普及・促進のサポート、業務・技術支援・保険制度支援
- ・守る仕組み 履歴情報管理・品質管理・技術支援
- ・支える仕組み 人材育成・経営サポート・後継者育成・情報提供

各委員会活動

- 次世代の会
- 増改築委員会
- 環境委員会
- 防耐火委員会
- 国産材委員会
- 改良型軸組み工法委員会
- マーケット委員会







【主な確認内容】		仕様の確認	
<p>【目的・概要】 地盤に応じた基礎の形式、構造方法、スパン表に基づく鉄筋の規格、径、品質等の確認。</p> <p>【検査基準法】 関連：令第37条（構造部材の耐久：有効なび止め）、告示1347号（基礎の構造方法等：異形鉄筋）。</p>		<p>□ 6-1 基礎の形式・構造</p> <p>・基礎形式 <input type="checkbox"/> 1-1-1 <input type="checkbox"/> 2-1-1 <input type="checkbox"/> 2-1-2</p> <p><input type="checkbox"/> 高基礎（家雪地帯）</p> <p>・構造 <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 <input type="checkbox"/> 1-1-1</p> <p>□ 6-2 基礎の配筋の確認</p> <p>・主筋の径・位置</p> <p>・径</p> <p>・ピッチ</p> <p>・位置 <input type="checkbox"/> 良</p> <p>□ 6-3 補強筋の径・位置</p> <p>・開口部直下の補強</p> <p>・径</p> <p>・位置 <input type="checkbox"/> 良</p> <p>・コーナ一部補強 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>□ 6-4 鉄筋の種類</p> <p>・異形鉄筋</p> <p>・規格 <input type="checkbox"/> 鉄高書シート(ロ)</p> <p><input type="checkbox"/> 納品マーク写真</p>	
<p>写真タイトル: 基礎配筋後の全景（撮影可能範囲）</p> <p>撮影年月日: 平成22年8月6日 12時41分</p> <p>天候:</p>		<p>写真タイトル: 基礎配筋の詳細</p> <p>撮影年月日: 平成22年8月5日 11時46分</p> <p>天候:</p>	
<p>関連するF1000項目 （施工要領図書項目）</p> <p><input type="checkbox"/> 1-1-1 基礎の形式 <input type="checkbox"/> 1-1-2 基礎の位置 <input type="checkbox"/> 1-1-3 基礎の構造</p>		<p>設計施工 事項:</p> <p><input type="checkbox"/> 1-1-4 基礎の形式・位置等 <input type="checkbox"/> 1-1-1 基礎の構造方法 <input type="checkbox"/> 2-1-1 基礎部材の材料</p>	

土台		仕様の確認	
<p>【目的・概要】 土台の勝手、アンカーボルトの位置の確認。</p> <p>【検査基準法】 関連：令第38条の2（構造設計の原則）、第37条（構造部材の耐久）、第41条（木材）、第42条（土台及び基礎）、第49条（外壁内部等の防湿措置等）の確認。</p>		<p>□ 14-1 土台の形状</p> <p>・形状 <input type="checkbox"/> 1-1-1 <input type="checkbox"/> 1-1-2 <input type="checkbox"/> 1-1-3</p> <p>・断面 <input type="checkbox"/> 2-1-1 <input type="checkbox"/> 2-1-2 <input type="checkbox"/> 2-1-3</p> <p>※ 図録シートNO.13参照</p> <p>・防湿防虫措置 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>□ 耐久性区分D1の特定仕様</p> <p>□ 3.3X2.0相当仕様</p> <p>※ 本表欄における適否は事後使用の有無</p> <p>□ 14-2 アンカーボルトの確認</p> <p>・良 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>□ 14-3 土台の勝手位置</p> <p>・良 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・接合方法・接合状態</p> <p>□ 良 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・使用金物</p> <p>※ 図録シートNO.13参照</p> <p>□ 14-4 土台の位置</p> <p>・有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>□ 土台の形状</p> <p>□ 納品書シート(ナ)</p> <p>□ 納品写真</p> <p>寸法 mm <input type="checkbox"/> 2-1-1</p> <p>間隔 mm <input type="checkbox"/> 2-1-1</p> <p>形状</p> <p>□ 土台の位置</p> <p>□ 良 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>□ アンカーボルト位置</p> <p>□ 土台勝手・柱下</p>	
<p>写真タイトル: 土台施工</p> <p>撮影年月日: 平成22年8月26日 07時42分</p> <p>天候:</p>		<p>写真タイトル: アンカーボルトの位置</p> <p>撮影年月日: 平成22年8月26日 07時46分</p> <p>天候:</p>	
<p>関連するF1000項目 （施工要領図書項目）</p> <p><input type="checkbox"/> 2-1-1 土台の勝手位置 <input type="checkbox"/> 2-1-2 土台の位置 <input type="checkbox"/> 2-1-3 土台の形状</p>		<p>設計施工 事項:</p> <p><input type="checkbox"/> 2-1-1 土台の勝手位置 <input type="checkbox"/> 2-1-2 土台の位置 <input type="checkbox"/> 2-1-3 土台の形状</p>	

横架材(梁、桁など)		16
<p>＜横架材(梁、桁など)＞の記録。</p> <p>【確認・確認】 横架材の断面寸法、スパンの確認。</p> <p>【施工基準】 横架材の樹種の確認。</p> <p>【主な確認内容】</p> <p>実業文化庁：(建築基準法)令第36条の2(構造設計の原則)、第37条(構造部材の耐久)、第41条(木材)、第44条(はり等の横架材)、第49条(外壁内部等の防湿措置等)の確認。</p>		
<p>撮影年月日: 平成22年9月17日 12時40分 天候: 天候</p>		<p>仕様の確認</p> <p>□ 16-1 横架材の形状</p> <p>□ 16-2 断面大梁</p> <p>巾 mm</p> <p>せい mm</p> <p>スパン* mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 2階床小梁</p> <p>巾 mm</p> <p>せい mm</p> <p>スパン* mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 小梁梁</p> <p>巾 mm</p> <p>せい mm</p> <p>スパン* mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 脚差</p> <p>巾 mm</p> <p>せい mm</p> <p>スパン* mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>*スパンは層次のものを選択し、その層次の中一棟を記入のこと。</p> <p>【施工内容確認】</p> <p>□ 仕口・継手・金物の状態</p> <p>※ 記録シートNO.23参照</p> <p>□ 構造耐力上支障のある欠込みがない</p>
<p>撮影年月日: 平成22年9月17日 12時45分 天候: 天候</p>		
<p>関連するF1000-1項目 (施工確認書参照)</p> <p>□ 1-1-1 床・土台の構造・関係 □ 1-1-2 外壁・屋根の構造・関係 □ 1-1-3 小梁・はり等の構造・関係 □ 1-1-4 小梁・はりの構造・関係</p> <p>設計施工業者: 16 構造材の取付状況</p>		

水平剛性(火打)		21
<p>＜床組＞に使用した火打の記録。</p> <p>【確認・確認】 火打ちの種類、断面寸法の確認。</p> <p>【施工基準】 火打ちの取付位置、取付状態の確認。</p> <p>【主な確認内容】</p> <p>実業文化庁：(建築基準法)令第36条の2(構造設計の原則)、第37条(構造部材の耐久)、第41条(木材)、第46条(構造耐力上必要軸組等)の確認。</p>		
<p>撮影年月日: 平成22年9月17日 12時43分 天候: 天候</p>		<p>仕様の確認</p> <p>□ 21-1 火打の種類</p> <p>□ 火打金物</p> <p>種類</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 木製火打</p> <p>断面 x mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 21-2 火打と取付金物</p> <p>差せい mm</p> <p>□ 21-3 火打の取付位置の確認</p> <p>□ 良 □ 否</p> <p>□ 21-4 火打の取付状態の確認</p> <p>□ 良 □ 否</p>
<p>撮影年月日: 平成22年9月17日 12時43分 天候: 天候</p>		
<p>関連するF1000-1項目 (施工確認書参照)</p> <p>□ 1-1-1 火打ちの位置・種類 □ 1-1-2 火打ちと取付金物 □ 1-1-3 火打ちの取付位置</p> <p>設計施工業者: 21 構造材の取付状況</p>		

接合部		23
<p>柱と横架材の＜接合部＞の記録。</p> <p>【確認・確認】 隙差と通し柱・床・屋根の外周部の横架材の接合部の確認。</p> <p>【施工基準】 横架材の樹種の確認。</p> <p>【主な確認内容】</p> <p>実業文化庁：(建築基準法)令第47条(継手・仕口)、告示第1460号(筋かい端部の接合部、柱頭・柱脚の接合部の構造方法)の確認。</p>		
<p>撮影年月日: 平成22年8月30日 14時06分 天候: 天候</p>		<p>仕様の確認</p> <p>□ 23-1 接合部の品質</p> <p>※ 記録シートNO.13参照 検</p> <p>□ 23-2 筋かい端部の接合部の確認</p> <p>□ 23-3 柱頭・柱脚の接合部の確認</p> <p>□ われ・すきま・ねじれ</p> <p>・有 ・無</p> <p>□ 23-4 隙差・通し柱の接合部の確認</p> <p>□ 23-5 床・屋根の外周部の横架材の接合部</p> <p>① 下底の付着</p> <p>② 継手部材の付着</p> <p>③ 継手部材の付着</p> <p>④ 継手部材の付着</p> <p>⑤ 継手部材の付着</p> <p>⑥ 継手部材の付着</p> <p>⑦ 継手部材の付着</p> <p>⑧ 継手部材の付着</p> <p>⑨ 継手部材の付着</p> <p>⑩ 継手部材の付着</p> <p>⑪ 継手部材の付着</p> <p>⑫ 継手部材の付着</p> <p>⑬ 継手部材の付着</p> <p>⑭ 継手部材の付着</p> <p>⑮ 継手部材の付着</p> <p>⑯ 継手部材の付着</p> <p>⑰ 継手部材の付着</p> <p>⑱ 継手部材の付着</p> <p>⑲ 継手部材の付着</p> <p>⑳ 継手部材の付着</p> <p>㉑ 継手部材の付着</p> <p>㉒ 継手部材の付着</p> <p>㉓ 継手部材の付着</p> <p>㉔ 継手部材の付着</p> <p>㉕ 継手部材の付着</p> <p>㉖ 継手部材の付着</p> <p>㉗ 継手部材の付着</p> <p>㉘ 継手部材の付着</p> <p>㉙ 継手部材の付着</p> <p>㉚ 継手部材の付着</p> <p>㉛ 継手部材の付着</p> <p>㉜ 継手部材の付着</p> <p>㉝ 継手部材の付着</p> <p>㉞ 継手部材の付着</p> <p>㉟ 継手部材の付着</p> <p>㊱ 継手部材の付着</p> <p>㊲ 継手部材の付着</p> <p>㊳ 継手部材の付着</p> <p>㊴ 継手部材の付着</p> <p>㊵ 継手部材の付着</p> <p>㊶ 継手部材の付着</p> <p>㊷ 継手部材の付着</p> <p>㊸ 継手部材の付着</p> <p>㊹ 継手部材の付着</p> <p>㊺ 継手部材の付着</p> <p>㊻ 継手部材の付着</p> <p>㊼ 継手部材の付着</p> <p>㊽ 継手部材の付着</p> <p>㊾ 継手部材の付着</p> <p>㊿ 継手部材の付着</p> <p>【施工内容確認】</p> <p>□ 通し柱に代わる管柱による</p> <p>継手の構造</p> <p>・使用金物</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 23-5の①-⑫以外の横架材の接合部</p> <p>・使用金物</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 欠込み部、めり込みに対する</p> <p>構造</p> <p>・有 ・無</p> <p>・使用金物</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p>
<p>撮影年月日: 平成22年9月13日 09時45分 天候: 天候</p>		
<p>関連するF1000-1項目 (施工確認書参照)</p> <p>□ 1-1-1 接合部の品質 □ 1-1-2 筋かい端部の接合部 □ 1-1-3 柱頭・柱脚の接合部 □ 1-1-4 隙差・通し柱の接合部</p> <p>設計施工業者: 23 継手・仕口の取付</p>		

外壁(防水・通気構造)		27
<p>＜外壁＞下地の記録。</p> <p>【確認・確認】 通気構造等の状態の確認。</p> <p>【施工基準】 土台の寸法・形状の確認。</p> <p>【主な確認内容】</p> <p>実業文化庁：(建築基準法)第24条(通気構造)の確認。</p>		
<p>撮影年月日: 平成22年9月24日 16時14分 天候: 天候</p>		<p>仕様の確認</p> <p>□ 27-1 防水措置の方法</p> <p>□ シート状</p> <p>□ 板状(ALCA等)</p> <p>□ 27-2 防水仕上の種類、品質</p> <p>□ 納品書シート(ラ)</p> <p>□ 表示マーク写真</p> <p>□ 27-3 防水紙の重ね幅</p> <p>幅方向 mm</p> <p>□ 90mm以上</p> <p>高さ方向 mm</p> <p>□ 90mm以上</p> <p>□ 135mm以上(従来材(FG))</p> <p>□ 180mm以上(従来材(FG))</p> <p>□ 27-4 留付け釘等の間隔</p> <p>mm</p> <p>仕様の確認</p> <p>通気構造</p> <p>□ 27-5 通気構造の種類</p> <p>□ 外壁通気</p> <p>□ 軒の出が90cm以上の真壁</p> <p>※ 記録シートNO.41参照</p> <p>□ 27-6 通気構造の仕様</p> <p>□ 種類</p> <p>寸法 x mm</p> <p>間隔 mm</p> <p>樹種</p> <p>□ 断面材</p> <p>※ 記録シートNO.13参照</p> <p>□ 留付け釘方向</p> <p>・縦 ・横</p> <p>□ 外壁下部・下部の通気の確認</p> <p>□ 有</p> <p>□ 通気層の厚み</p> <p>mm</p> <p>□ 100mm以上</p> <p>□ 27-7 胴縁の防湿防露措置</p> <p>□ 薬剤処理、K3X2相当処理</p> <p>※ 記録シートNO.12参照</p> <p>□ 土台の基準の特定制程</p> <p>□ 有</p> <p>□ 27-8 土台と外壁間の隙間の水切り</p> <p>□ 有</p>
<p>撮影年月日: 平成22年9月24日 16時17分 天候: 天候</p>		
<p>関連するF1000-1項目 (施工確認書参照)</p> <p>□ 2-1-1 通気構造の状態 □ 2-1-2 防水の取付状況 □ 2-1-3 土台と外壁の取付状況</p> <p>設計施工業者: 27 構造材の取付状況</p>		